

令和2年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）
新型コロナウイルス感染症影響下における通いの場をはじめとする
介護予防の取組に関する調査研究事業

新型コロナウイルス感染症影響下における 高齢者の心身への影響

【中間的報告】

令和2（2020）年12月
株式会社日本能率協会総合研究所

中間的報告について

株式会社日本能率協会総合研究所（JMAR）では、令和2年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）「新型コロナウイルス感染症影響下における通いの場をはじめとする介護予防の取組に関する調査研究事業」において、新型コロナウイルス感染症影響下における全国の通いの場の活動状況及び高齢者の心身への影響の調査を実施している。

本事業においては、早急に概況を把握すること、並びに、全市町村を対象とした調査の設計に向けた基礎情報とすべく、都道府県が把握している情報や一部の市町村の情報をご提供いただき、先行分析を行った。

本中間的報告は、その先行分析を取りまとめたものである。

結果は一部の自治体のデータであるため、2020（令和2）年12月から全市町村を対象とした調査を開始した。

なお、上記市町村調査の集計・分析結果を踏まえ、2021（令和3）年3月末までに最終的な取りまとめを行い、報告することを予定している。

<目次>

1. 調査概要	1
(1) 都道府県における把握情報の分析	1
(2) 市町村における基本チェックリスト等情報の分析	2
2. 通いの場の活動状況に関する中間的報告	3
(1) 通いの場の活動状況について	3
①全国的な傾向について	3
②都道府県別の傾向	4
(2) 通いの場の活動に関する課題について	5
①通いの場の活動再開に向けた課題	5
②通いの場の実施（あるいは再開）するなかで、新型コロナウイルス感染症影響下において生じた課題	6
(3) 通いの場の活動に関する自治体の取組について	7
①活動自粛（あるいはその判断）に関する支援	7
②活動の実施（あるいはその判断）に関する支援	8
3. 高齢者の心身等への影響に関する中間的報告	9
(1) 基本チェックリスト結果等からみる高齢者の心身等への影響	9
①基本チェックリスト結果からわかる傾向	9
②東京都八王子市実施の独自調査結果からみる高齢者の心身への影響	11
(2) その他ヒアリング等から見る高齢者の心身等への影響	12
参考（資料）	13
(1) 都道府県ごとの通いの場の活動状況	15
(2) 通いの場の活動再開に向けた課題一覧	15
(3) 通いの場の実施（あるいは再開）するなかで、 新型コロナウイルス感染症影響下において生じた課題	17
(4) 活動自粛（あるいはその判断）に関する市町村の支援	20
(5) 活動の実施（あるいはその判断）に関する市町村の支援	21
(6) チェックリスト結果の概要（提供データ統合版 R1 年度）	23
(7) チェックリスト結果の概要（提供データ統合版 R2 年度）	24

(1) 都道府県における把握情報の分析

①調査概要

- 調査時期 : 令和2年10月14日(水)～10月19日(月)
- 調査対象 : 都道府県(悉皆)
- 調査手法 : メールでの依頼・回収による任意の情報提供及び電話による追加ヒアリング
- 調査系統 : 弊社(JMAR)→厚生労働省老健局老人保健課→都道府県介護予防担当課→JMAR

②回収率

- 情報提供自治体数
21 / 47都道府県(回収率44.7%)

③分析方針

○通いの場の活動実態に係る分析

…都道府県より情報提供いただいたデータのうち、実数による通いの場の活動状況把握が可能なデータを用い、活動の状況を「活動」、「自粛」に分類し集計。

新型コロナウイルス感染症の流行状況による影響を把握するため、「新型インフルエンザ等対策特別措置法に基づく緊急事態宣言」(以下、「緊急事態宣言」という。)が発令された2020(令和2)年4～5月期とそれ以降に分け、比較分析を行った。

○通いの場の活動に係る行政支援策に係る分析

…都道府県より情報提供いただいたデータのうち、市町村による通いの場への活動支援に係るフリーアンサーを抽出し、データコーディングのうえ分析。

(2) 市町村における基本チェックリスト等情報の分析

①調査概要

- 調査時期 : 令和2年10月～11月
- 調査対象 : 市町村(抽出:3市町村)
- 調査手法 : メール及び電話による情報提供・ヒアリングほか
- 調査系統 : 厚生労働省老健局老人保健課→JMAR⇔対象市町村

②回収率

- 情報提供自治体数
3市町村 …東京都八王子市、他2市町村(匿名希望のため詳細省略)
- うち、基本チェックリストを用いた調査結果を活用したデータ
2/3市町村 …詳細省略
⇒合計サンプル数:(令和元年度)20,529件、(令和2年度)21,507件
- うち、基本チェックリスト以外の項目に係る調査結果を活用したデータ
1/3市町村 …東京都八王子市(サンプル数:41,875件)

③分析方針

- 基本チェックリスト結果から見る影響分析
…基本チェックリスト該当者割合の変化を、後期高齢者(75歳以上)に限定して分析
- 基本チェックリスト以外の項目から見る影響分析
…調査対象が、新型コロナウイルス感染症の影響下において自らの心身の状況に影響があったと回答した調査項目について、単純集計

2 通いの場の活動状況に関する中間報告

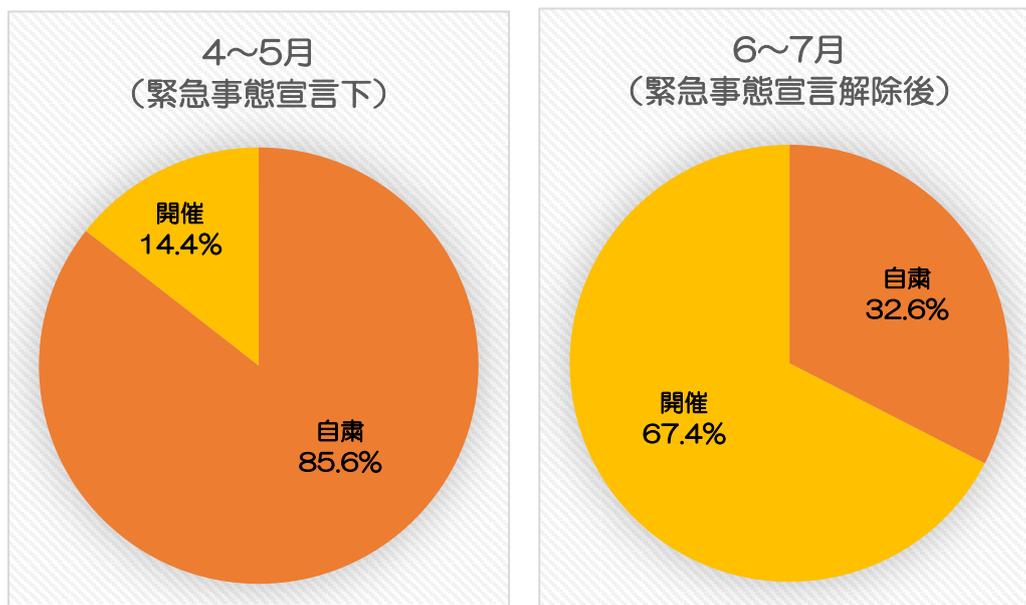
(1) 通いの場の活動状況について

①全国的な傾向について

緊急事態宣言が発令された2020（令和2）年4月及び5月には、85.6%の通いの場が活動を自粛していた（活動率14.4%）。

緊急事態宣言解除後には徐々に活動再開の兆しが見えはじめ、6月及び7月には、自粛率32.6%、活動率67.4%と、約7割の通いの場が活動していた。

図表 通いの場の取組の開催・自粛率



	サンプル数 (件数/都道府県数)		自粛数 (%)		開催数 (%)	
	件数	都道府県数	件数	(%)	件数	(%)
4~5月	8,222	3	7,038	85.6%	1,184	14.4%
6~7月	9,025	5	2,940	32.6%	6,085	67.4%

※北海道（5、7月）、岩手県（6月）、広島県（6月）、鹿児島県（4、5、6、7月）の提供データを分析

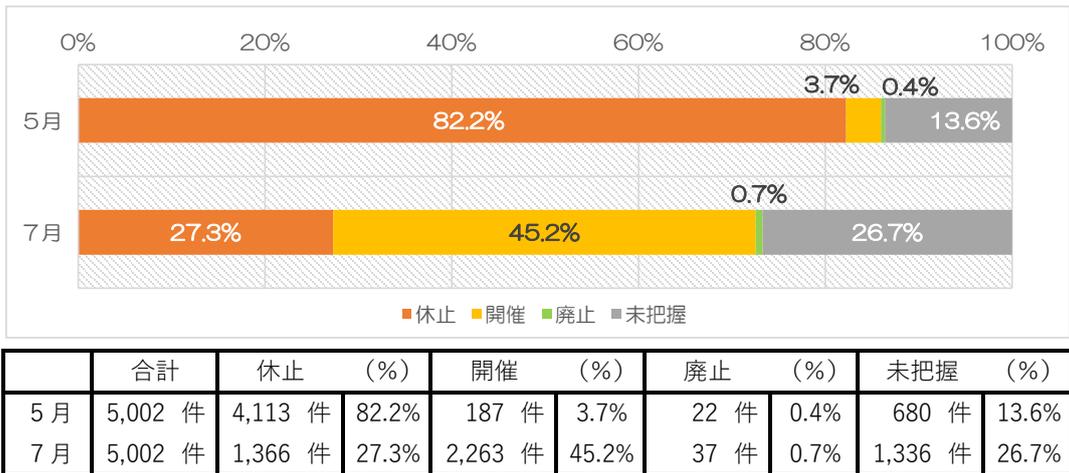
②都道府県別の傾向

通いの場の活動状況を、実数で、かつ活動状況を比較できた北海道と鹿児島県を参考に取り上げる。

<北海道>

北海道では、緊急事態宣言が発令された 2020（令和 2）年 5 月には、82.2%の通いの場が活動を自粛していた（開催率 3.7%）。宣言解除後の 7 月には自粛率 27.3%（開催率 45.2%）と変化していた。

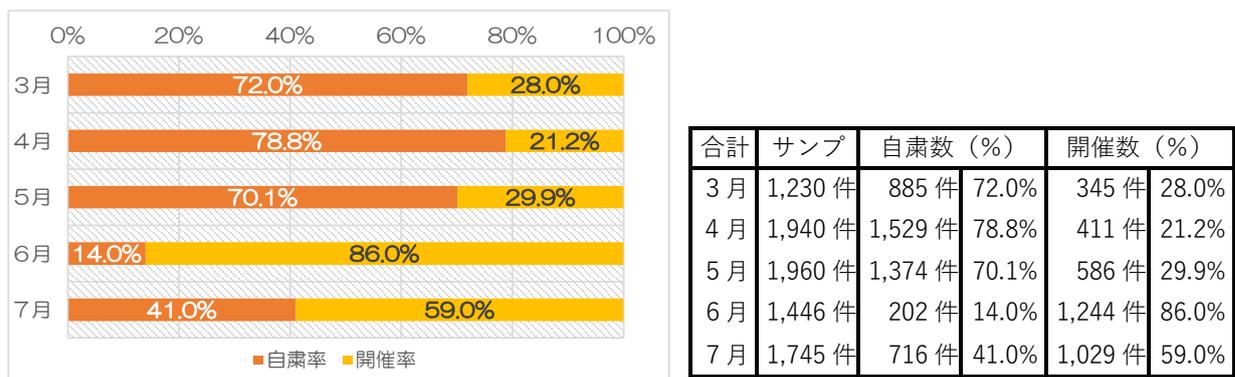
図表 北海道の推移



<鹿児島県>

鹿児島県では、緊急事態宣言が発令された 2020（令和 2）年 4 月が 78.8%と最も高い自粛率であり、宣言解除後の 6 月には自粛率 14.0%（活動（再開）率 86.0%）という数値となっている。

図表 鹿児島県の推移



～考察～

北海道は鹿児島県及び全国の値と比較しても高い自粛率（休止率）となっている。この背景には、全国に先んじて独自の緊急事態宣言を発令（2月28日発表）したことなどが関係し、道民の危機意識の高まりが他府県と比較して進んでいたのではないかと考えられる。

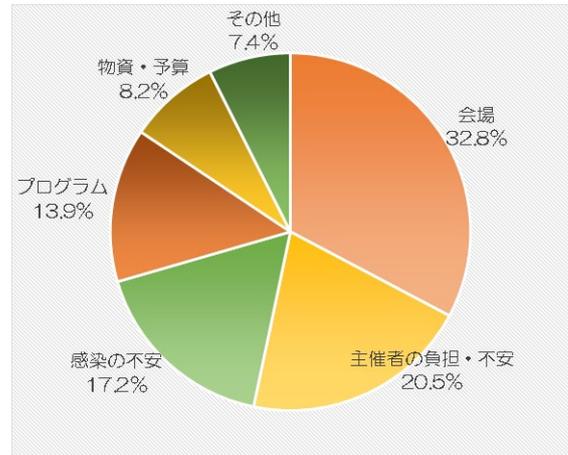
鹿児島県は、宣言期間中の4～5月の新型コロナウイルス感染症の感染状況が全国の中でも比較的拡大していなかったこともあり、自粛に対する意識が他都道府県に対し緩やかであったのではないかと推察される。一方、7月に入ると県内で複数のクラスター発生が報告されたため、通いの場の主催者及び住民が自主的に自粛を進めていったのではないかと考えられる。

(2) 通いの場の活動に関する課題について

先行分析において、通いの場の「活動再開に向けた課題」及び「活動再開後に生じた課題」を抽出した。

①通いの場の活動再開に向けた課題

通いの場の活動再開に向けた課題についてのフリーアンサー122件をコーディングし、分類すると、会場（40件）、主催者の負担・不安（25件）、感染の不安（21件）、プログラム（17件）、物資・予算（10件）、その他（9件）の順に並ぶことが分かった。



<「会場」に係る主な課題>

会場に係る課題としては、主に、「3密を避けて実施するための会場確保が困難」であったり、「(元々の参加者数が多く)会場の広さに応じた参加者数の設定に困難がある」、そもそも「会場を貸してもらえなくなった」、などの意見が多くみられた。

Ex)「実施場所に対して参加者が多く、感染症予防対策のできた環境が準備できない」

「会場の管理側より利用の中止を求められている」

「参加者間の距離を取るような会場設営や定員の修正が難しい」

<「主催者の負担・不安」に係る主な課題>

主催者の負担や不満としては、主に、「主催する通いの場で感染が発生した場合のリスク不安」であったり、「感染対策の負担が大きい」、あるいは「地域から活動再開に賛同が得られない」などの風評的なもののほか、回答を得た時期的な観点から、「熱中症が心配」といった意見もみられた。

Ex)「主催者となる団体が感染拡大のリスクを恐れて、積極的な開催に至らない」

「机や椅子等の消毒が手間で開催できない」

「地域での行事ごとが中止されている中で、通いの場のみ再開するのに気が引ける」

<「感染の不安」に係る主な課題>

続いて、参加者が「感染に不安がある」ため、活動再開に踏み切れないといった意見もみられた。

Ex)「感染への不安があり参加者が集まらない」

<「プログラム」に係る主な課題>

既存の実施内容が、「新しい生活様式に基づかない」ことや、「感染予防に配慮してプログラム変更をする必要がある」などの理由から、活動再開を躊躇するケースも散見された。

Ex)「茶話会や歌唱など、「新しい生活様式」になじまない内容を見直す必要がある」

<「物資・予算」に係る主な課題>

感染対策をするための備品等の調達、あるいはそのための予算に関する課題も複数あげられた。

Ex)「ハード面(感染防止の仕切り板等)や消耗品(マスク、手指消毒薬等)を揃える資金面の問題」

<「その他」に係る主な課題>

その他として、「移動サービスが無くなったため交通手段がない」、「講師が町に来られない」といった意見がみられた。

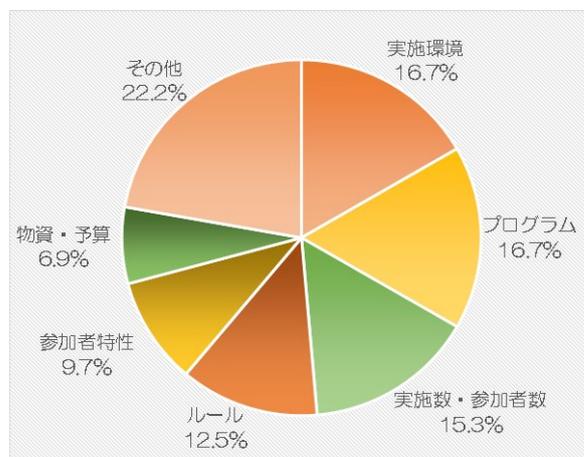
②通いの場を実施（あるいは再開）するなかで、新型コロナウイルス感染症影響下において生じた課題

通いの場の活動再開後に生じた課題についてのフリーアンサー72件をコーディングし、分析すると、実施環境（12件）、プログラム（12件）、実施数・参加者数（11件）、ルール（9件）、参加者特性（7件）、物資・予算（5件）、その他（16件）の順に並ぶことが分かった。

<「実施環境」に係る主な課題>

実施環境に係る課題としては、主に、開催時と同じく会場の「広さ」等に起因するものや、エアコンや換気システム、あるいは感染予防対策の徹底などの「管理」の問題、実施方法をWeb開催に切り替えるなどの「開催方法」などについての意見が多くみられた。

- Ex)「適切なソーシャルディスタンスを保てない」
「全ての通いの場等に統一したやり方(運営方法、感染対策等)を導入することは難しい」
「オンラインの活用が進んでいない」



<「プログラム」に係る主な課題>

プログラムにおける課題は、主に、実施内容と新しい生活様式のギャップにより生じる「実施内容」の面のほか、回答を得た時期的な観点から、「熱中症が心配」といった意見が多くみられた。

- Ex)「通所型の介護予防教室や通いの場は、「新しい生活様式」に逆行するものであり、参加に抵抗を示す住民は少なくない」

<「実施数・参加者数」に係る主な課題>

この分類では、適切なソーシャルディスタンス等を確保するため、一回当たりの人員を減らすことなどの「参加者調整」の難しさ、感染不安などから人が集まらない「参加者減」に関する意見が多くみられた。

- Ex)「受け入れ枠を確保しようとする、1回の開催時間が短縮され予防に必要な内容を提供できない」

<「ルール」に係る主な課題>

活動再開に際して、感染予防策の徹底や活動報告など、新たに必要となった行動についてのルールに関する課題が散見された。

- Ex)「感染者が出たときに備え、参加者の体調管理や連絡先の共有などを徹底するルール作りが課題」
「環境整備の徹底を求めすぎると、負担感を与え、活動継続が困難になる懸念がある」

<「参加者特性」に係る主な課題>

高齢者が集う通いの場であって、感染予防に係る特有の課題があげられた。

- Ex)「検温やマスク着用についてお願いしても忘れてしまう人がいる」
「高齢者同士の会話は声が大きく、声の出し方に難しさを感じる」

<「物資・予算」に係る主な課題>

感染対策をするための備品等の調達、あるいはそのための予算に関する課題も複数あげられた。

- Ex)「グループから消毒液や非接触体温計配布の要望あり、物品確保・予算確保に苦慮している」

<「その他」に係る主な課題>

その他として、主催者に対する感染予防に「緊張感を持続させることが課題」、通いの場に送迎する車に「複数の方を乗車させた場合の感染対策が十分にとれない」といった意見がみられた。

(3) 通いの場の活動に関する自治体の取組について

先行分析において、自治体による通いの場への「活動自粛（あるいはその判断）に関する支援」及び「活動の実施（あるいはその判断）に関する支援」を抽出した。

①活動自粛（あるいはその判断）に関する支援

通いの場の活動自粛（あるいはその判断）に関する支援のフリーアンサー9件をコーディングし、分類すると、通知・要請（6件）、情報提供（2件）、相談対応（1件）の順に分類できた。

<「通知・要請」に係る項目>

活動自粛については、市町村から通いの場の管理者等に対して通知等を用いて自粛要請をするケースが多くみられた。

- Ex)「外出自粛期間中は中止を要請」
「市が関与している場合は中止を要請」

<「情報提供」に係る項目>

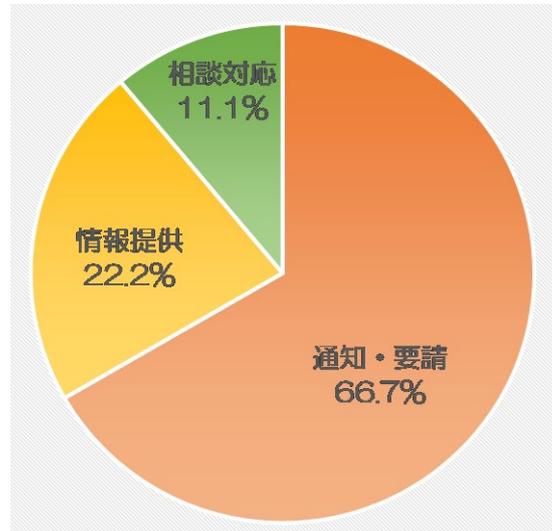
市町村から直接の自粛要請等はないまでも、国や都道府県の動き、あるいは市町村の考え方などについてお知らせをするというケースがみられた。

- Ex)「通いの場実施団体代表に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る国県の通知を送付するほか、市の対処方針を提示」

<「相談対応」に係る項目>

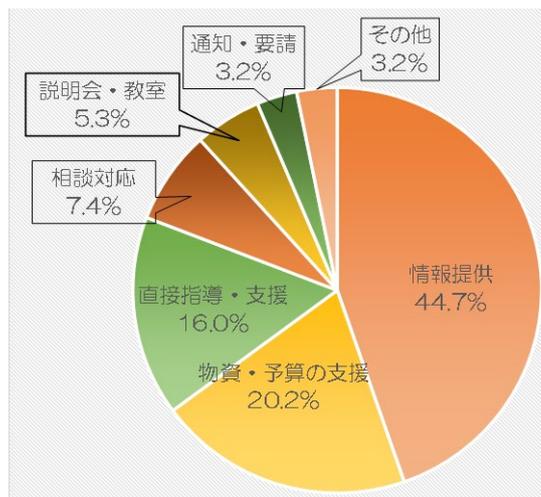
直接的に自粛要請はしないものの、仮に活動を一度止める場合は、再開後のサポートを約束するなどのサポートを行う自治体もみられた。

- Ex)「活動を見合わせる場合は、開催時の感染予防対策やフレイル予防に関する相談に個々に対応」



②活動の実施（あるいはその判断）に関する支援

通いの場の活動の実施（あるいはその判断）に関するフリーアンサー94件をコーディングし、分類すると、情報提供（42件）、物資・予算の支援（19件）、直接指導・支援（15件）、相談対応（7件）、説明会・教室（5件）、通知・要請（3件）、その他（3件）の順に分類できた。



<「情報提供」に係る項目>

活動再開に向けた情報提供として、国や都道府県、あるいは関係団体・機関等が発出している情報を提供することや、市町村独自の活動再開指針・チェックシート等を通いの場の運営者に提供するケースが多くみられた。

Ex)「厚生労働省が作成をした「通いの場を開催するための留意点」(運営者・リーダー向け、参加者向け)を配布」

「サロンを開催する場合のチェックリストを作成し、運営者へ配布」

<「物資・予算の支援」に係る項目>

活動再開に当たり必要となる感染予防物資等を支給・貸与する取組が多くみられた。

Ex)「手洗い石鹸・アルコール消毒・消毒用品・次亜塩素酸ナトリウム等・体温計を配布」

<「直接指導・支援」に係る項目>

活動を再開する通いの場に対して、市町村が人員を派遣し、運営方法等の直接支援を行う場合がみられた。

Ex)「再開の初回時には、会場準備や消毒方法を参加者と一緒にしながら指導実施」

「再開したグループより順次担当者が確認に行き、お家でできる体操などフレイル予防について指導」

<「相談対応」に係る項目>

活動再開に向けた運営者の悩み等を市町村が相談対応するケースも散見された。

Ex)「通いの場再開に向けての支援(協議の場の設定、再開教室の状況把握訪問)」

「再開していない通いの場については主催者に聞き取りを行い、委託先と行政で解決策を提案」

<「説明会・教室」に係る項目>

活動再開に向け、市町村が感染予防等に対する説明会や教室等を開催するケースもみられた。

Ex)「公民館や集会所等で活動を再開した全ての団体に対して、感染予防の健康教育を実施」

<「通知・要請」に係る項目>

通いの場の運営者に対し、市町村より通いの場の再開に向けた通知文等を発出するケースもあった。

Ex)「感染防止対策の徹底を必須条件としたうえで再開しても差し支えない旨の通知を発出」

<「その他」に係る項目>

その他として、主催者に対し、感染者が出た場合を想定した「通いの場の参加者名簿(緊急連絡先含む)の作成を依頼」するケースや、ソーシャルディスタンスを確保できない通いの場に対して「3密を避けるため自宅で実施していたグループに社会福祉協議会の部屋を貸し出す」といった支援が報告された。

(1) 基本チェックリスト結果等からみる高齢者の心身等への影響

「基本チェックリスト（25 項目）についての活用状況に係る実態調査」（令和元年度実施：厚生労働省介護予防活動普及展開事業に係る調査等一式）の結果等を活用し抽出した3か所の市町村にご協力いただき、各市町村が実施した基本チェックリスト等を活用した独自調査結果データを再分析することで、新型コロナウイルス感染症影響下における高齢者の心身等への影響について取りまとめた。

①基本チェックリスト結果からわかる傾向

協力いただいた2か所の市町村から提供いただいた令和元年度実施及び令和2年度実施分の基本チェックリスト結果を比較し、以下の結果を得ることができた。

なお、2か所の市町村の調査概要は以下の通り。

	A 市	B 市
調査時期（R1）	令和元年5月	令和元年6月
調査時期（R2）	令和2年6月	令和2年6月
調査方法 （R1,R2 いずれも）	郵送調査	郵送調査
調査対象 （R1,R2 いずれも）	市内 65 歳以上全数 （要介護者を除く）	市内 75 歳以上全数 （要介護者を除く）
標本数（R1,R2 いずれも。 75 歳以上の標本数のみ）	約 1 万件	約 1 万件

※具体的な調査数（発送数・回収数等）は市町村のマスキングを考慮し詳細は省略
⇒合計サンプル数は「(R1) 20,529 件」、「(R2) 21,507 件」

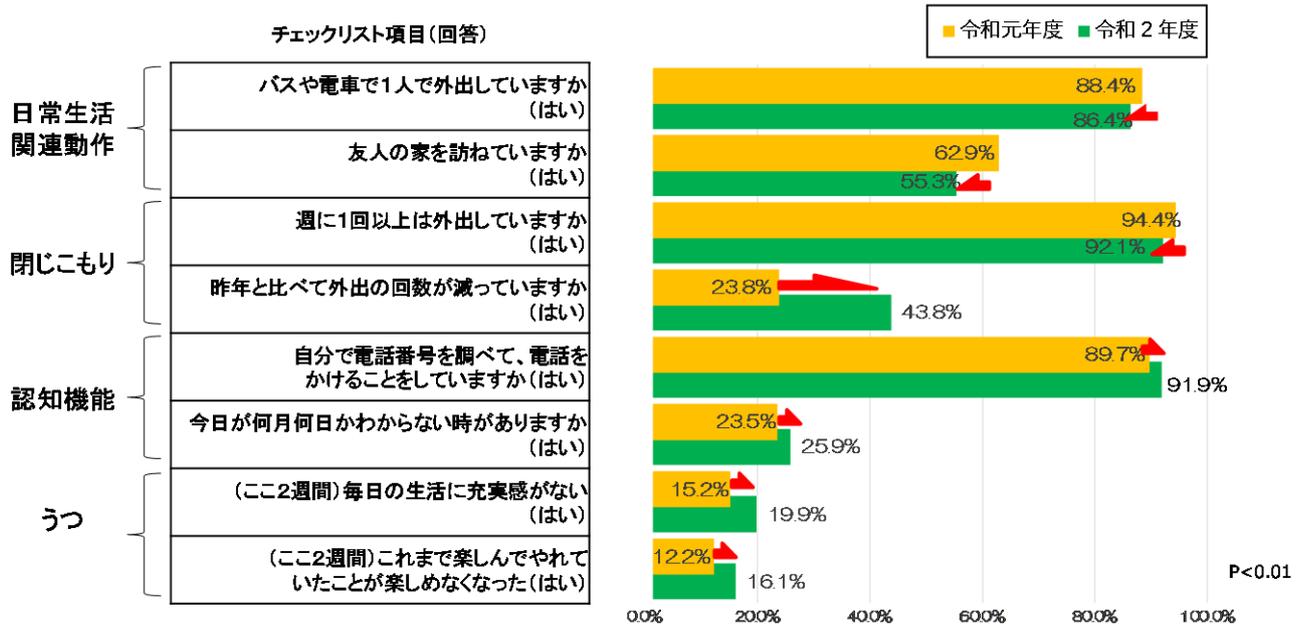
基本チェックリスト該当者割合の変化を、後期高齢者(75 歳以上)に限定して分析した結果をみると、「昨年と比べて外出の回数が減っていますか」に対する「はい」の該当者が 20.0%、「友人の家を訪ねていますか」に対する「いいえ」の該当者が 7.6%増加と、特に多くなっており、次いで、「毎日の生活に充実感がない」（「はい」 4.7%増）、「これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった」（「はい」 3.9%増）、「今日が何月何日かわからない時がありますか」（「はい」 2.4%増）、「週に 1 回以上外出していますか」（「いいえ」 2.2%増）、「自分で電話番号を調べて電話をかけることをしていますか」（「はい」 2.2%増）、「バスや電車で 1 人で外出していますか」（「いいえ」 2.1%増）と続く。

全体的に、令和2年度の基本チェックリスト各項目の該当者は、令和元年度と比べ、外出機会は減少し、認知機能やうつに関する項目の該当者が増加していたことが伺えた。

※本分析の留意点

今回の結果は令和元年度と令和2年度の回答結果を、各年の母数同士で単純比較しているものであり、後期高齢者の総数としての傾向をみるものである。個々人の経年変化を比較したものではない。

図表 基本チェックリスト該当者割合の変化（75歳以上）



チェックリスト項目	R1	R2	増減 (R2-R1)	R1	R2	増減 (R2-R1)
	はい			いいえ		
1 バスや電車で1人で外出していますか	88.4%	86.4%	-2.1%	11.6%	13.6%	2.1%
2 日用品の買い物をしていますか	89.6%	89.8%	0.2%	10.4%	10.2%	-0.2%
3 預貯金の出し入れをしていますか	86.1%	86.4%	0.3%	13.9%	13.6%	-0.3%
4 友人の家を訪ねていますか	62.9%	55.3%	-7.6%	37.1%	44.7%	7.6%
5 家族や友人の相談にのっていますか	77.9%	76.6%	-1.3%	22.1%	23.4%	1.3%
6 階段を手すりや壁をつたわずに昇っていますか	58.1%	58.6%	0.5%	41.9%	41.4%	-0.5%
7 椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	80.2%	79.8%	-0.4%	19.8%	20.2%	0.4%
8 15分位続けて歩いていますか	87.3%	86.2%	-1.1%	12.7%	13.8%	1.1%
9 この1年間に転んだことがありますか	24.2%	23.8%	-0.4%	75.8%	76.2%	0.4%
10 転倒に対する不安は大きいですか	49.1%	49.8%	0.8%	50.9%	50.2%	-0.8%
11 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	12.4%	13.4%	1.0%	87.6%	86.6%	-1.0%
12 低体重(BMI 18.5未満)の割合	8.6%	8.5%	-0.1%	91.4%	91.5%	0.1%
13 半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか	30.6%	29.5%	-1.1%	69.4%	70.5%	1.1%
14 お茶や汁物等でむせることがありますか	27.1%	25.6%	-1.5%	72.9%	74.4%	1.5%
15 口の渇きが気になりますか	27.5%	25.7%	-1.8%	72.5%	74.3%	1.8%
16 週に1回以上は外出していますか	94.4%	92.1%	-2.2%	5.6%	7.9%	2.2%
17 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	23.8%	43.8%	20.0%	76.2%	56.2%	-20.0%
18 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあるとされますか	12.3%	12.2%	-0.1%	87.7%	87.8%	0.1%
19 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	89.7%	91.9%	2.2%	10.3%	8.1%	-2.2%
20 今日が何月何日かわからない時がありますか	23.5%	25.9%	2.4%	76.5%	74.1%	-2.4%
21 (ここ2週間)毎日の生活に充実感がない	15.2%	19.9%	4.7%	84.8%	80.1%	-4.7%
22 (ここ2週間)これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	12.2%	16.1%	3.9%	87.8%	83.9%	-3.9%
23 (ここ2週間)以前は楽にできていたことが今ではおっくうに感じられる	31.1%	32.2%	1.1%	68.9%	67.8%	-1.1%
24 (ここ2週間)自分が役に立つ人間だと思えない	17.4%	18.4%	1.0%	82.6%	81.6%	-1.0%
25 (ここ2週間)わけもなく疲れたような感じがする	27.6%	29.1%	1.4%	72.4%	70.9%	-1.4%

令和元年度 (n=20,529)
令和2年度 (n=21,507)

※介護予防把握事業として75歳以上の非要介護認定者の心身の状況を把握している2市のデータを集計
※各市の回答結果を合計し、令和元年度と令和2年度を単純比較
調査時期 A市：各年度6月 B市：各年度6~7月

変化率-1以上~1%未満
変化率-1%以下~-2以上%、1%以上~2未満%
変化率-2%以下~-5以上%、2%以上~5未満%
変化率-5%以下、5%以上

②東京都八王子市実施の独自調査結果からみる高齢者の心身への影響

八王子市が令和2年度に実施した「八王子健康アンケート」の集計データを提供いただき、八王子市における後期高齢者の心身の状況について分析を行った。

なお、「八王子健康アンケート」の調査概要は以下の通りである。

目的：新型コロナウイルスの影響から高齢者の心身状態が低下していると想定される中、現在の心身状況を早期に把握し、リスク該当者を介護予防サービスや一般介護予防事業等の支援に効果的に繋げる。また、総合事業をはじめとする多様な支援が不足なく提供できる需給体制を整えるための基礎資料とする。

対象者：八王子市内在住の75歳以上（令和2年5月31日時点）で、要介護などの認定がない方

配付数：52,511件（回収：41,875件（回収率：約79.7%））

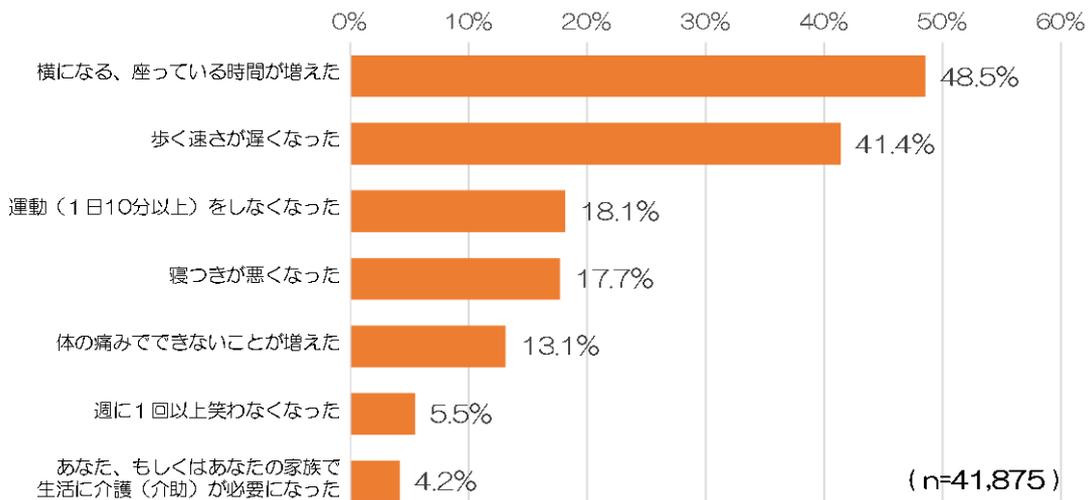
時期：令和2年9月

方法：基本チェックリスト項目を含む35問の調査票による郵送・回収

当該調査結果によると、「新型コロナウイルス感染拡大防止による自粛生活で、あなたの暮らしや気持ちにどのような変化がありましたか。（自粛前と現在の違いを教えてください。）」に対し、「横になる、座っている時間が増えた」（48.5%）、「歩く速さが遅くなった」（41.4%）、がともに4割を超え、以下、「運動（1日10分以上）をしなくなった」（18.1%）、「寝つきが悪くなった」（17.7%）、「体の痛みでできないことが増えた」（13.1%）と続いた。

座っている時間が増えた方が半数、運動をしなくなった方が2割と、要介護状態となるリスクにつながる生活の変化が見られたと考えられる。

図表 自粛生活における暮らしや気持ちの変化



	母数	はい	いいえ
あなた、もしくはあなたの家族で生活に介護（介助）が必要になった	41,875	1,753 4.2%	40,122 95.8%
運動（1日10分以上）をしなくなった	41,875	7,596 18.1%	34,279 81.9%
週に1回以上笑わなくなった	41,875	2,299 5.5%	39,576 94.5%
寝つきが悪くなった	41,875	7,412 17.7%	34,463 82.3%
歩く速さが遅くなった	41,875	17,339 41.4%	24,536 58.6%
横になる、座っている時間が増えた	41,875	20,328 48.5%	21,547 51.5%
体の痛みでできないことが増えた	41,875	5,497 13.1%	36,378 86.9%

(2) その他ヒアリング等からみる高齢者の心身等への影響

都道府県から情報提供いただいたデータ及びヒアリングの結果から、新型コロナウイルス感染症影響下における高齢者の心身等への影響について、以下のように分類することができると推察される。

ただし、簡易的な取りまとめであることから、今後より精緻な調査により、数値として実態を明らかにしていくことが重要である。

- 交流機会の減少
 - …交流の機会が減少し、孤立感を感じる高齢者が増加
- 活動意欲の低下
 - …何もする気になれない、何かをしようにもやり方がわからない
- ひきこもり傾向の増長
 - …外出の機会の減少、廃用やフレイル傾向の増長
- ADL 低下
 - …歩行機能の低下、体力測定の結果が悪化した高齢者の増加
- 認知機能の低下
 - …交流機会の減少等により認知機能が低下したケースの増加
- 精神的負担の増加
 - …精神的な不安を感じる方の増加、うつ傾向の増長

また、ヒアリング結果から、傾向として以下のような意見が得られている。

- 予防事業等に参加していない参加者の状態像への影響が大きい
- 通いの場に参加しない方のうち、特に活動性が高い（あるいは活動性の高さに起因し通いの場に来ない）方は、新型コロナウイルス感染症の影響下における心身への影響が少ない
- 80代以降の方の認知機能低下が顕著
- リハビリテーションを受けられなくなった方の筋力低下が多い

(参考) N 町 基本チェックリスト調査 2019 年度と 2020 年度（7 月時点）の比較データ

※年度により回収率が異なるため、各年度の指数比較。（2020 年度 n=1,055）

- 運動機能に係る指数（No.6～10 の 3 項目以上チェック者）
 - …2019 年度：26.2% ⇒ 2020 年度：28.0% （1.8%増）
- 認知機能に係る指数（No.18～20 の 1 項目以上チェック者）
 - …2019 年度：27.0% ⇒ 2020 年度：30.5% （3.5%増）

参考（資料）

(1) 都道府県ごとの通いの場の活動状況

	月次	サンプル	自粛 数値把握	自粛 %	開催 数値把握	開催 %
鹿児島県	3	1,230	885	72.0%	345	28.0%
鹿児島県	4	1,940	1,529	78.8%	411	21.2%
鹿児島県	5	1,960	1,374	70.1%	586	29.9%
北海道	5	4,322	4,135	95.7%	187	4.3%
岩手県	6	665	259	38.9%	406	61.1%
広島県	6	1,503	360	24.0%	1,143	76.0%
鹿児島県	6	1,446	202	14.0%	1,244	86.0%
鹿児島県	7	1,745	716	41.0%	1,029	59.0%
北海道	7	3,666	1,403	38.3%	2,263	61.7%
山梨県	8	1,136	702	61.8%	434	38.2%
長崎県	9	1,201	165	13.7%	1,036	86.3%

※各自治体、未把握の箇所数を除いて母数を計算したデータであることに留意

(2) 通いの場の活動再開に向けた課題一覧

会場	換気	物理的に換気ができない	
		集まる場所の換気	
	参加者減	他会場での開催だと、参加者が集まりにくい	
	参加者数設定	会場の広さや、参加人数を考慮して、参加定員の設定が必要	他2件
		人数制限が必要であり、参加者数を決めることが難しい	
		距離を十分に確保する活動スペースが無い	他15件
		会場の管理側より利用の中止を求められている（病院や施設、マンションなど）	
		環境（会場が狭いため人数制限、換気が悪い等）、内容（体操、運動プログラム、大声で笑う、グループワーク等）の制限があり、集めることができない	
		3密すべてを避けることが難しい	他1件
		会場が密閉空間のため使用できない	
		施設内となり、利用者が密接、密集になりうるため、現時点でも再開するのは難しい	
		会場によっては、ソーシャルディスタンスを配慮しての活動が出て人数制限が発生してしまうため、その調整により、実施できない	他1件
		一部サロンでは、会場として利用していた介護予防事業所などとの調整がつかず、一部休止している	他2件
既存の施設が使えない場合の代替場所の確保			

		公民館など、公的な施設を利用していた場合、部屋の貸出自体をしていないかった	
		施設を使用しているところは、外部者を入れられない	
		感染症予防対策のできた環境が整わない	他1件
感染不安		通いの場参加者からコロナ陽性者が発生する不安がある	他12件
		感染への不安があり参加者が集まらない	他2件
		地区で協議の上、感染拡大の懸念があり再開を見合わせている	
		グループ内で再開したい人と再開に反対（本人の意思、家族からの反対）の人がいて再開の決定ができない	
		実施主体となるスタッフが感染を不安に感じている	
		感染のリスクがあるため自粛	
主催者の負担・不安	熱中症	熱中症対策	
		猛暑のため熱中症の心配	他2件
	不安	クラスターとなってしまった場合の責任の所在がどうなるのか不安	他1件
		主催者が感染拡大のリスクを恐れて、積極的な開催に至らない	他2件
		持病を持つ高齢者が多く、未だに再開できていない	
	風評	田舎のため地域の目が怖い	
		地域での行事ごとが中止されている中で、通いの場のみ再開するのに気が引ける	他2件
	負担	運営者は介護予防やサロンの必要性を理解しているが、感染対策（検温・消毒・換気。対人距離など）の徹底が負担	他3件
		定員を減らし、2～3回に分けるとリーダーの負担が大きい	
		長い期間に渡り中止していたため、代表者の意欲が落ち、再開の目途がたっていない	
		持病持ちが多いので、世話係の責任が重い	
		サロンリーダーの体調不良等	
		市民だけでは管理ができない	
		ガイドラインに即した活動が難しい	
		新しい生活様式に沿った活動実施が難しい	
再開判断の負担が大きく、決断が難しい			
その他	通いの場を再開するにあたり、運営者・リーダー・参加者の感染予防の意識を高める工夫が必要だと感じる		
	飲食、カラオケ、囲碁将棋麻雀などリスクの高いものの再開にあたって具体的な指針、現実的な対策がない		
	感染予防をしながら通いの場をどのように運営をしていくかについての国のガイドラインがない		
	予防接種ができるまで中止		
	皆で話し合う場がなく、再開を見送っていた		
		県をまたぐ移動で訪れる車や人が多い	

		2グループに分けての実施も検討したが「これまでの皆とやりたい」という意見も多く再開に至っていない	
		会場までの移動手段がない（送迎サービスがコロナの影響で中止されている）	
		外部の専門職（リハビリ専門職）を呼びづらい状況	
物資・予算		消毒液、体温計等の確保が困難	他5件
		ハード面（感染防止の仕切り板等）や消耗品（マスク、手指消毒薬等）を揃える資金面の問題	他3件
		おもみやバンドの管理（会場から遠方の方は毎回持参するのが大変な方もおり一律に個人持ちにできない）	
プログラム		飲食物を扱う或いは発声が伴う活動の通い場については、衛生的な側面から再開が難しい	他4件
		健康マージャンは卓によってスペースが決まっているため、3密回避が難しい	
		通いの場で行っている合唱や体操はマスクをしながら行うことが難しい	
		感染予防への配慮が必要になり、場合によっては今までの活動内容からの変更が必要	
		参加者間の距離を取るような実施方法の設定	
		合唱がメインの団体の活動について、介護保険最新情報 vol.841で「歌を控えること」との内容があり、どのように再開できるか、課題	
		プログラムの内容の調整	
		「新しい生活様式」の実践と通いの場の両立が困難	他2件
		茶話会での交流を控えてしまうと、楽しみがなくなってしまうので、以前のような教室ができる時に始めたい	
		事業内容の見直しが必要な団体がある	
	密になることを避けられない活動であるため、実施が困難		

※右列の「他〇件」は類似回答の数

(3) 通いの場の実施（あるいは再開）するなかで、新型コロナウイルス感染症影響下において生じた課題

参加者特性		体温を計測して来所する人が少ない	
		スペースを十分確保しての会話は聴力が低下している高齢者によっては聞き取りづらく、やり取りがづらい	
		高齢者同士の会話は声が大きく、声の出し方に難しさを感じる	
		自由に参加できるため、入場制限や長居をしない、マスク着用、検温などルールの設定が難しい	
		フレイルが進行し、自粛前には戻れない方がいる	

		難聴などで近くで話さないと聞こえない方への対策	
		検温やマスク着用についてお願いしても忘れてしまう人がいる	
実施環境	WEB	オンラインなどの通信環境が整備されていないため、すぐにオンラインに切り替えることが出来ない	
		Web システムによる介護予防事業の導入を検討している	
		オンラインの活用が進んでいない	
	会場	常に適切なソーシャルディスタンスを保つことが難しい	他2件
		雨天や暑い日に屋外で活動できない	
		感染予防と熱中症予防の両立が難しい	
	管理	行政が関与していない通いの場における感染症予防対策の徹底	
		全ての通いの場等に統一したやり方（運営方法、感染対策等）を導入することは難しい	
	空調等	エアコン設備のない会場でのマスク着用の運動実施に不安を感じる	
		感染予防の換気と熱中症予防のエアコン利用、両方の目的を満たす空調方法が見つからない	
その他		教室型の直営事業の参加者送迎が困難な状況にあり、必要な方を参加させることが難しい（複数の方を乗車させた場合の感染対策が十分にとれないため）	
		検診の実施を見合わせていたため、介護予防事業の対象者の把握が出来ていない	
		再開していない通いの場の把握	
		人数が多い団体の世話人（ボランティア）の心配や負担が増えている	
		会場で体操できない時にお家でしっかり体操してもらえるように、参加者への意識づけが必要。自宅にDVDを視聴できる環境にない方や操作が難しい方もおられる	
		感染予防と熱中症に気を遣うため、世話人の負担が増加する	
		初回活動日に行政・包括・リハが開始支援を行っているが、多くの会場対応に限界を感じている	
		理学療法士などの専門職から辞退の申し出があり、「専門職が来ないなら行かない。」と参加者数が少なくなっている教室がある	
		効率的な高齢者への周知が困難（WEBを利用しない高齢者が多いため）	
		新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に対策を講じることが難しく、通いの場を解散する又は、今後活動を拡充していくことが困難	
		2部制を導入することで受け入れ枠を確保しようとする、委託費が高騰	

		体力低下等で参加が困難になった方へのフォロー体制	
		感染症予防等の条件を守って再開しても、地域住民から苦情が出ることもある	
		感染予防の徹底を考え対応する会場と、これまで通りのふれあいを重視する会場で取組に差が出てくる	
		クラスターを発生させないように事業を実施することが必要だが、緊張感を持続させることが課題	
		実施回数の減少	
予算・物資		感染症予防策の為に必要物品購入予算の確保	他4件
プログラム	内容	マスク着用ではしにくい。声出しにより、唾の飛沫が心配である等で実施しない場がある	
		介護予防の拠点である通いの場であるが、来場者の求めているものとしてカラオケや麻雀などの娯楽性の高いものが多く、そういったものの多くは新型コロナウイルス感染のリスクが高い	
		マスクやフェイスガードが体操の妨げになる	
		カラオケや、体操等の運動を実施している団体も多く、3密防止や消毒等の施設利用時のルール、検温・体調管理等の感染予防の取り組みなどを徹底してもらうことが課題	
		通所型の介護予防教室や通いの場は、「新しい生活様式」に逆行するものであり、参加に抵抗を示す住民は少なくない	
		体操や歌唱、会食などに制限があるので、住民の開催意欲が低減してしまっている	
	熱中症	マスク着用にて体操することで熱中症のリスクが高まる	他4件
		マスク着用により声が聞き取りにくく体操も息苦しさで負担が大きい	
ルール		住民主体の通いの場において、環境整備の徹底を求めすぎると、負担感を与え、活動継続が困難になる懸念がある	
		連絡網を作成していなかったため、再開の連絡ができなかった	
		単に感染症予防対策だけでなく、通いの場活動を行う団体や介護予防活動に参加する高齢者が、感染に伴うリスクを理解し、「通いの場」活動の再開の是非を決定する支援の構築	
		マスク着用で運動する場合の身体負荷に関して適切な指標がない	他1件
		運営者に状況の理解を求め、感染拡大を防ぐための注意事項を厳守いただくようお願いしているが、なかなか理解が得られない	
		参加者と指導者どちらも慣れない環境で当面の間事業を進めていくことが課題	

		参加者やその家族に感染者が出たときに備え、参加者の体調管理や連絡先の共有などを徹底するルール作りが課題	
		参加者のリスク（持病のある高齢者）等を考慮した参加の可否検討	
実施数・参加者数	参加者減	休止前に参加していた人のADL・認知能力の低下により、足が遠のいているケースが発生している	
		参加者の減少	
	参加者数設定	施設の利用人数の制限	
		会場定員を半分に減らし、入れ替え制で実施する為に参加者の調整が必要になった	
		適切な身体的距離を優先すると、参加人数を抑えざるを得ず、これまでの参加者の全員を受け入れることができない	
		2部制を導入することで受け入れ枠を確保しようとする、1回の開催時間が短縮され介護予防に必要な教室内容を提供できない	
		人との距離を2メートルあけると集まれる人数に限りがあり、団体の全員が一度に集まることができない	
		人数制限をかけて2班体制などで実施すると、全員で集まりたいという参加者の声が発生する	
		会場や参加者の規模が異なり、一定条件を示してそぐわない場合に、参加者の一人当たりの利用回数が減ることや活動内容が縮小される	
		予定していた参加者数より大勢来てしまい、初回が密集になったグループがあった	
	再開しても感染の不安から参加を自粛している人へのフォローをどうするか		

※右列の「他〇件」は類似回答の数

（４）活動自粛（あるいはその判断）に関する市町村の支援

情報提供	地域の自主グループに対して、教室中止の方針を情報提供	
	通いの場実施団体代表に、新型コロナウイルス感染症の拡大防止に係る通知を送付するほか、行政の対処方針を提示	
相談対応	活動を見合わせる場合は、開催時の感染予防対策やフレイル予防に関する相談に個々に対応	
通知・要請	全ての通いの場に中止要請	他4件
	外出自粛期間中は中止を要請	
	通いの場事業について6月末まで中止要請	

※右列の「他〇件」は類似回答の数

(5) 活動の実施（あるいはその判断）に関する市町村の支援

情報提供	市町村独自作成	サロンを開催する場合のチェックリストを作成し、運営者へ配布	他 1 件	
		運営上の注意点をまとめたチラシを市独自で作成して配付	他 1 件	
		感染予防対策ガイドラインを作成	他 5 件	
			感染防止に配慮して通いの場を開催するための留意点についてのリーフレットを運営者へ周知	他 7 件
			感染対策に関するチェックリストを代表者に配布	
			通いの場ガイドラインを配布	他 1 件
			感染予防に関するチラシを配布	他 11 件
			体操後の情報交換ではお茶出しをせず、飲み物は持参、差し入れなどはできるだけ控えてもらうよう助言	
			行政、社会福祉協議会、地域包括支援センターで意見交換を行い、新しい生活様式を取り入れたサロン活動についてまとめたチラシを作成して、社会福祉協議会から各サロン代表者に配布し、意向を確認しながらフォローアップ	
			感染予防の講話を実施もしくは感染予防講話 DVD を配布	
			各グループ代表者宛てにフレイル予防を中心とした資料を送付	
			感染防止対策を行うことで、活動再開が可能であることを周知	
			随時国・県・市の対応方針や情報等を資料として配布	
体調の自己管理カードを作成し配布				
感染予防対策に関するお知らせを事前配布し、再開の際は連絡をもらえるよう周知				
アルコール消毒液、マスク等必要な物品の購入について、補助金を利用できることを伝えた				
説明会・教室		公民館や集会所等で活動を再開した全ての団体に対して、感染予防の健康教育を実施		
		6月の1週目に通いの場運営の担当者を集めて感染症対策を含めた環境づくりについて説明会を実施。当日消毒液と 1.5M 測定用の紐、体温記録表を配布		
		サロンを再開する際には、初回の活動に町保健師が感染症予防と新しい生活様式の定着に向けた講話を行っている		
		サロン代表者に案内し、サロン再開に向けての情報提供や意見交換会を開催		
		開催に向けた説明会の実施		
相談対応		通いの場再開に向けての支援（協議の場の設定、再開教室の状況把握訪問）		
		再開していない通いの場については、代表者に聞き取りを行い、委託先と町で解決策を提案		

		再開に際して講師と検討	
		リーダーからの相談に個別対応	他 3 件
その他		通いの場の参加者名簿（緊急連絡先含む）の作成を依頼。不特定の参加者が活動するグループから説明している	
		各グループの参加者連絡先（住所・TEL 番号等）を把握してもらい、感染者が出た時は、参加者に連絡がすぐにつく体制をとる	
		3密を避けるため自宅で実施していたグループに社会福祉協議会の部屋を貸し出す	
直接指導・支援		再開したグループより順次担当者が確認に行き、感染症対策の徹底や、体操について、お家でできる体操などフレイル予防についても指導する	
		再開する通いの場への専門職（PT、OT、歯科衛生士等）の派遣実施	
		初回には生活支援コーディネーターが派遣され復活支援	
		再開した通いの場所にそれぞれに専門職が訪問し、体操の指導や休止中に延期している予定などの継続支援のスケジュールの立て直しやフォローを実施	
		通いの場実施場所での感染症対策の現地指導	他 10 件
通知・要請		感染防止対策の徹底を必須条件としたうえで再開しても差し支えない旨の通知を发出	
		新型コロナウイルス感染症対策本部の方針により、公共施設の一般利用再開にあわせ住民主体の通いの場へ自粛解除を行うことを通知	
		各サロンに対し、通知文を出した	
物資・予算の支援	消毒の支援	アルコール消毒液の配布	他 8 件
	体温計の支援	非接触型体温計の貸し出し	他 2 件
	マスクの支援	マスクの配付	他 1 件
	複合支援	各会場に非接触型の体温計とマスク、アルコール消毒液を整備	他 1 件

※右列の「他〇件」は類似回答の数

(6) 基本チェックリスト結果の概要 (提供データ統合版 R1年度)

	男女 (75歳以上)				男 (75歳以上)				女 (75歳以上)				
	はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ		
	合計	割合	いいえ	割合	合計	割合	いいえ	割合	合計	割合	いいえ	割合	
1.バスや電車ですら一人で外出していますか	20,406	18.044	88.4%	2,362	11.6%	9,453	8.7%	818	8.7%	10,953	85.9%	1,544	14.1%
2.日用品の買い物をしていますか	20,432	18,306	89.6%	2,126	10.4%	9,451	91.3%	1,137	12.0%	10,981	91.0%	989	9.0%
3.預貯金の出し入れをしていますか	20,434	17,598	86.1%	2,836	13.9%	9,444	88.0%	1,794	19.0%	10,990	90.5%	1,042	9.5%
4.友人の家を訪ねていますか	20,265	12,753	62.9%	7,512	37.1%	9,382	55.9%	4,138	44.1%	10,883	69.0%	3,374	31.0%
5.家族や友人の相談のついでに	20,171	15,717	77.9%	4,454	22.1%	9,357	75.3%	2,309	24.7%	10,814	80.2%	2,145	19.8%
6.階段をすのりや壁をつたわずに昇っていますか	20,246	11,772	58.1%	8,474	41.9%	9,391	66.8%	3,116	33.2%	10,855	50.6%	5,358	49.4%
7.椅子に座った状態から立ち上がり立ち上がっていますか	20,383	16,345	80.2%	4,038	19.8%	9,445	84.5%	1,468	15.5%	10,938	76.5%	2,570	23.5%
8.15分位続けて歩いていますか	20,259	17,676	87.3%	2,583	12.7%	9,395	87.8%	1,149	12.2%	10,864	86.8%	1,434	13.2%
9.この1年間に転んだことがありますか	19,990	4,837	24.2%	15,153	75.8%	9,281	22.8%	7,168	77.2%	10,709	25.4%	7,985	74.6%
10.転倒に対する不安は大きいですか	20,198	9,910	49.1%	10,288	50.9%	9,372	37.0%	5,902	63.0%	10,826	59.5%	4,386	40.5%
11.6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少はありましたか	19,350	2,401	12.4%	16,949	87.6%	9,047	12.9%	7,883	87.1%	10,303	12.0%	9,066	88.0%
12.低体重 (BMI 18.5未満) の割合	19,806	1,702	8.6%	18,104	91.4%	9,268	5.9%	8,717	94.1%	10,538	10.9%	9,387	89.1%
13.半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか	20,318	6,221	30.6%	14,097	69.4%	9,398	30.2%	6,556	69.8%	10,920	30.9%	7,541	69.1%
14.お茶や汁物等でむせることがありますか	20,293	5,495	27.1%	14,798	72.9%	9,394	26.7%	6,889	73.3%	10,899	27.4%	7,909	72.6%
15.口の渇きが気になりますか	20,214	5,554	27.5%	14,660	72.5%	9,363	26.4%	6,895	73.6%	10,851	28.4%	7,765	71.6%
16.週に1回以上は外出していますか	20,282	19,141	94.4%	1,141	5.6%	9,402	95.1%	463	4.9%	10,880	93.8%	678	6.2%
17.昨年と比べて外出の回数が減っていますか	20,283	4,831	23.8%	15,452	76.2%	9,389	20.3%	7,486	79.7%	10,894	26.9%	7,966	73.1%
18.周知の人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると言われますか	20,191	2,479	12.3%	17,712	87.7%	9,361	12.8%	8,167	87.2%	10,830	11.9%	9,545	88.1%
19.自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	20,311	18,215	89.7%	2,096	10.3%	9,390	89.0%	1,034	11.0%	10,921	90.3%	1,062	9.7%
20.今日が何月何日かわかりません、時間がありませんか	20,228	4,750	23.5%	15,478	76.5%	9,382	23.9%	7,142	76.1%	10,846	23.1%	8,336	76.9%
21. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	20,051	3,042	15.2%	17,009	84.8%	9,319	15.2%	7,907	84.8%	10,732	15.2%	9,102	84.8%
22. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しくなくなりました	20,081	2,459	12.2%	17,622	87.8%	9,330	11.1%	8,291	88.9%	10,751	13.2%	9,331	86.8%
23. (ここ2週間) 以前は楽しんでやれていたことが今ではおっくうに感じられる	20,121	6,266	31.1%	13,855	68.9%	9,332	26.6%	6,852	73.4%	10,789	35.1%	7,003	64.9%
24. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	20,010	3,473	17.4%	16,537	82.6%	9,280	18.1%	7,603	81.9%	10,730	16.7%	8,934	83.3%
25. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	20,137	5,565	27.6%	14,572	72.4%	9,363	25.1%	7,017	74.9%	10,774	29.9%	7,555	70.1%

(7) 基本チェックリスト結果の概要 (提供データ統合版 R2年度)

	男女 (75歳以上)				男 (75歳以上)				女 (75歳以上)				
	はい		いいえ		はい		いいえ		はい		いいえ		
	合計	割合	いいえ	割合	合計	割合	いいえ	割合	合計	割合	いいえ	割合	
1. バスや電車などで外出していますか	21,226	86.4%	2,897	13.6%	9,848	88.57%	89.9%	991	10.1%	11,446	83.2%	1,920	16.8%
2. 日用品の買い物をしていますか	21,264	89.8%	2,176	10.2%	9,849	86.65%	88.0%	1,184	12.0%	11,482	91.3%	1,000	8.7%
3. 預貯金の出し入れをしていますか	21,249	86.4%	2,889	13.6%	9,832	7,989	81.3%	1,843	18.7%	11,485	90.8%	1,061	9.2%
4. 友人の家を訪ねていますか	20,983	55.3%	9,370	44.7%	9,762	4,859	49.8%	4,903	50.2%	11,287	60.1%	4,501	39.9%
5. 家族や友人の相談にのっていますか	20,942	76.6%	4,903	23.4%	9,752	7,266	74.5%	2,486	25.5%	11,258	78.4%	2,430	21.6%
6. 階段を手すりや壁をつたって昇っていますか	21,049	58.6%	8,706	41.4%	9,788	6,546	66.9%	3,242	33.1%	11,329	51.5%	5,498	48.5%
7. 椅子に座った状態から立ち上がっていますか	21,162	79.8%	4,270	20.2%	9,828	8,184	83.3%	1,644	16.7%	11,401	87.6%	2,638	23.1%
8. 1.5分位続けて歩いていますか	21,136	86.2%	2,922	13.8%	9,824	8,530	86.8%	1,294	13.2%	11,379	85.6%	1,640	14.4%
9. この1年間に転んだことがありますか	21,126	23.8%	16,094	76.2%	9,807	2,229	22.7%	7,578	77.3%	11,387	24.7%	8,569	75.3%
10. 転倒に対する不安は大きいですか	21,077	49.8%	10,576	50.2%	9,798	3,738	38.2%	6,060	61.8%	11,346	59.9%	4,551	40.1%
11. 6ヶ月間で2~3kg以上の体重減少がありましたか	20,481	13.4%	17,740	86.6%	9,547	1,323	13.9%	8,224	86.1%	10,998	14.28%	9,570	87.0%
12. 低体重 (BMI 18.5未満) の割合	20,729	8.5%	18,964	91.5%	9,694	554	5.7%	9,140	94.3%	11,100	11.0%	9,881	89.0%
13. 半年前に比べて堅いものが食べにくくなりましたか	21,154	6.2%	14,919	70.5%	9,822	2,849	29.0%	6,973	71.0%	11,399	29.9%	7,996	70.1%
14. お茶や汁物等でむせることがありますか	21,213	5.4%	15,778	74.4%	9,840	2,505	25.5%	7,335	74.5%	11,440	29.47%	8,493	74.2%
15. 口の渇きが気になりますか	21,151	5.4%	15,720	74.3%	9,818	2,405	24.5%	7,413	75.5%	11,400	26.7%	8,361	73.3%
16. 週に1回以上は外出していますか	21,183	92.1%	1,665	7.9%	9,840	9,176	93.3%	664	6.7%	11,411	91.2%	1,008	8.8%
17. 昨年と比べて外出の回数が減っていますか	21,226	43.8%	11,929	56.2%	9,844	3,478	35.3%	6,366	64.7%	11,450	51.1%	5,602	48.9%
18. 周りの人から「いつも同じ事を聞く」などの物忘れがあると書われますか	21,118	2.5%	18,542	87.8%	9,810	1,236	12.6%	8,574	87.4%	11,375	11.8%	10,028	88.2%
19. 自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	21,197	91.9%	1,717	8.1%	9,825	8,932	90.9%	893	9.1%	11,440	92.8%	829	7.2%
20. 今日が何月何日かわからない時がありますか	21,117	5.4%	15,651	74.1%	9,819	2,602	26.5%	7,217	73.5%	11,366	25.4%	8,480	74.6%
21. (ここ2週間) 毎日の生活に充実感がない	20,951	4.1%	16,792	80.1%	9,758	1,852	19.0%	7,906	81.0%	11,260	20.6%	8,944	79.4%
22. (ここ2週間) これまで楽しんでやれていたことが楽しくなくなりました	20,961	3.3%	17,587	83.9%	9,767	1,359	13.9%	8,408	86.1%	11,261	20.2%	9,238	82.0%
23. (ここ2週間) 以前は楽しんでやれていたことが今ではおっくうに感じられる	21,044	6.7%	14,259	67.8%	9,786	2,757	28.2%	7,029	71.8%	11,326	35.7%	7,283	64.3%
24. (ここ2週間) 自分が役に立つ人間だと思えない	20,896	3.8%	17,055	81.6%	9,730	1,881	19.3%	7,849	80.7%	11,232	17.6%	9,256	82.4%
25. (ここ2週間) わけもなく疲れたような感じがする	21,066	6.1%	14,945	70.9%	9,793	2,527	25.8%	7,266	74.2%	11,339	31.8%	7,728	68.2%

令和2年度老人保健健康増進等事業（老人保健事業推進費等補助金）
新型コロナウイルス感染症影響下における通いの場をはじめとする
介護予防の取組に関する調査研究事業

新型コロナウイルス感染症による高齢者の心身への影響調査
【中間的報告】

株式会社日本能率協会総合研究所
2020（令和2）年12月

住所 東京都港区芝公園3-1-22
電話 0120-876-300
